

課題別研修「小学校理科教育の質的向上 （「教えと学び」の現場教育）」

対象国： アフガニスタン、アンゴラ、エチオピア、
ギニアビサウ、ラオス、モルディブ、
モンゴル、ミャンマー、モザンビーク、
ナミビア、パプアニューギニア

受入人数： 13名

受入期間： 2017年10月15日～2017年12月16日

発展途上国の小学校では、先生が前に立って教科書を読み上げ、生徒はそれを聞き、暗記するだけという理科の授業が多くみられます。

本研修は、教員や教員学校の指導者等を対象に、実験や観察を通じた問題解決型の授業を行う人材の育成を目的として、実施しました。

日本の教育現場の視察、単元を見通した指導案の作成、途上国でも入手できる身近な材料を使用した実験の開発、小学校や高校での理科授業の実践等をとおして、研修員は、ひとつの授業を作り上げる難しさや、児童の学びを促進する工夫の必要性を痛感しました。





小学校で「磁石の性質」について授業を行う。



豆電球を使わずに「電気」の授業を行う方法を模索中。



「ものの温度と体積」の模擬授業では、フラスコの代わりにペットボトルや空ビンを利用。



手作りの筋肉Tシャツと腕のモデルを使用し、「体のつくりと運動」の模擬授業を実践。